

次世代を担う才能を発掘・応援する、アートとデザインのコンペティション

「Tokyo Midtown Award 2014」

アートコンペ 最終審査へ進む6作品が決定！

10月6日(月)最終審査会開催

<過去の受賞者の活躍もお知らせします！>

東京ミッドタウン(事業者代表 三井不動産株式会社)は、街のコンセプトである“「JAPAN VALUE(新しい日本の価値・感性・才能)」を創造・結集し、世界に発信し続ける街“を目指す一環として、毎年、アートコンペとデザインコンペからなる「Tokyo Midtown Award」を開催しています。過去6回の開催で、延べ応募者数約9千組の中から、アートコンペでは27組、デザインコンペでは53組の受賞者が生まれ、それぞれの活躍の場を広げています。

本ニュースレターでは、アートコンペの応募状況や7月28日(月)に行われた公開2次審査の結果、審査員総評、そして今後の審査の流れを、過去の受賞者近況などとあわせてご紹介します。

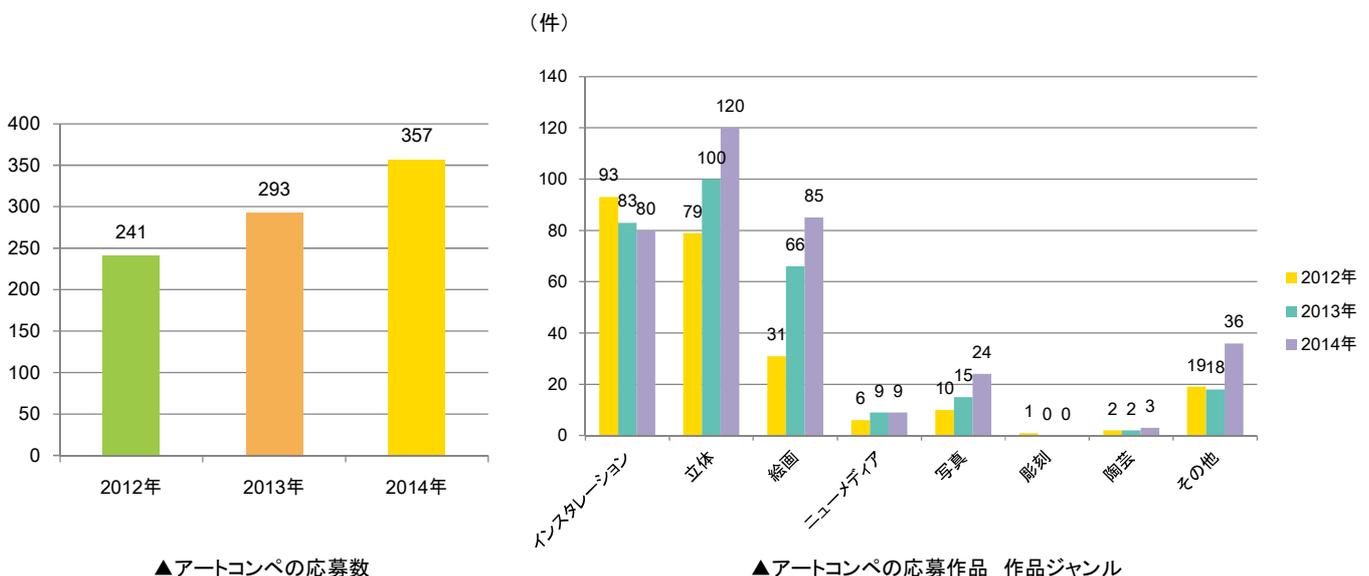
1. <アートコンペ>いよいよ最終審査会(10月6日)開催！ 応募状況、2次審査通過作品情報

6月5日(木)に募集を締め切ったアートコンペ。今年からは作品のテーマを設けず、サイトスペシフィックな作品を募集しました。その結果、昨年を上回る357点の応募があり、様々な手法を使った作品が多く集まりました。今回からテーマが自由になり、制作する作品のコンセプトを自ら考えていただくことになったために、多種多様な提案の応募が増えたと考えられます。

書類による1次審査、審査員全員に作家自らがプレゼンテーションを行う7月28日(月)の公開2次審査を経て、ついに最終審査に挑む6作品が決定しました。

今後、10月6日(月)に実施される最終審査へ向け、6名は制作に励み、受賞作品は10月17日(金)に行う授賞式及び東京ミッドタウンオフィシャルサイトにて発表します。グランプリ・準グランプリ(各1点)、優秀賞(4点)を獲得するのはどんな作品なのか。ぜひ、ご期待ください。(最終審査会の詳細は4ページをご参照ください)。

■ 応募状況データ



アートコンペは、プレゼンシートによる1次審査、プレゼンテーションによる2次審査を経て、実際に東京ミッドタウンに作品を制作・設置いただき最終審査を行うという、3段階による審査を行います。そのため2次審査では、模型やイメージパースをもとに、応募者の熱意あるプレゼンが繰り広げられます。これに審査員が呼応し、彼らが自分の作品をどう訴えるのか、また技術、経験値として作品の完成が可能なのかといった今後の制作について問う、白熱したディスカッションが行われることも、本アワードならではの見どころです。

■ 2次審査の様子

「Tokyo Midtown Award」アートコンペの大きな特長とも言える、プレゼンテーション形式の公開2次審査。1次の書類審査で、“東京ミッドタウンのプラザ B1F を会場に、自分の作品をどんな風に見せるか”を書面で提案し、見事2次審査に進んだ12名。7月28日(月)に東京ミッドタウン・ホールにて、5名の審査員を前に作品の提案を行いました。



▲審査員を前に白熱したプレゼンを繰り広げる



▲模型を駆使しての提案



▲公開審査に参加する来場者も増え、今年は75名が観覧

■ 2次審査を終えて～審査員総評 抜粋～



2次審査では、それぞれ意欲的でユニークなプレゼンテーションをしていただきました。このアワードとしては初挑戦のメディアや表現が多く、可能性が広がったと感じています。その中で今回は、自分なりのテーマを、説得力ある表現で強く打ち出せている方が最終審査に進んだと思います。いよいよ現場での作品展示です。東京ミッドタウンでどんな存在感を持ち、何を語るのか。皆さん力を発揮してくれることと期待しています。

(児島やよい フリーランス・キュレーター／ライター／慶応義塾大学、明治学院大学非常勤講師)

■ 2次審査通過作品 ※順不同

作品のコンセプトや完成度、実現性を厳しく問われる2次審査を見事通過した6名。写真やテキストで表現した作品なども初めて最終選考に残り、今後の期待が高まります。美術大学／大学院の現役学生や、すでに美術家として活動している方、また、彫師を経てアートの世界に踏み出し、今回初の公募展応募をされた方など、経歴も多彩な方々の作品が揃いました。

【作品名】 Empty freezer(m12) (エンプティーフリーザ)



素材：【木彫】漆、金箔古色彩色
【業務用冷凍ショーケース】
アクリル、蛍光灯、玉砂利

【作品について】

仏教の教えにある「無常」(どんなものにも始まりと終わりがあるということ)。この世が無常である限り、仏像でも、プラバック等の使い捨てのものでも同じようにいずれは朽ちていくものではないか。しかし、実際は仏像、使い捨てのものは分けられていく。仏像と同じ彫刻技法で作られたプラバック等から、いままでの価値観に疑問を提示できたらと考えている。



大塚 亨 (おおつか とおる)

美術家／仏像彫刻家

1980年 岐阜県生まれ／神奈川県大和市在住
2005年 東京藝術大学大学院美術研究科
文化財保存学専攻保存修復彫刻 修了
2013年 「トーキョーワンダーウォール2013」
インスタレーション部門・入選。

【作品名】

明日へ変わる(あしたへかわる)



素材：綿布、和紙、毛糸、ウール、オーガンジー

【作品について】

昨日の私と今日の私は全く同じではない。自分という存在は変化し続ける流れそのもので、変わらずそこに在り続ける事は不可能だ。現代社会はこの生命の流れに似ていると私は思う。日々生産される多くの物や情報の代わりに、失われるものもまた同じだけある。変わりたいと願う自分がいて、変わらないで欲しいと思う風景があって、変わり続ける自然の流れがある。私達の矛盾した気持ちとは裏腹に、生命はただ真っ直ぐに、明日へ変わる。



小林 万里子 (こばやし まりこ)

テキスタイル作家

1987年 大阪府生まれ/埼玉県蕨市在住
2012年 多摩美術大学大学院修士前期課程
デザイン専攻テキスタイル研究領域 修了
2011年 「第15回フラッグアート展 in 岐阜」
最優秀・日比野克彦賞

【作品名】

TODAY (とうでい)



素材：バックライト用フィルム、木、アクリル、LED

【作品について】

繰り返される毎日の中で、一日の大切さはみえにくい。この作品に内在しているテーマもみえにくい。みえにくいけど、みてほしい。わずらわしくてすみません。



加藤 立 (かとう りゅう)

フリーランスデザイナー

1979年 愛知県生まれ/東京都狛江市在住
2003年 東京藝術大学美術学部建築科卒業
2011年 「SICF12・南条史生賞」(spiral) 受賞

【作品名】

もう片方(もうかたほう)



素材：樹脂にアルミ蒸着、フェイクファー、鉄芯、木材

【作品について】

モチーフのハイヒールは都会で生き生きと暮らす女性のイメージの投影である。この作品の最も重要なストーリーは「社会に対し、憤った女性が履いていた片方の靴を衝動的に投げ、ふと、我に返った時にもう片方の靴を見たら、靴のヒールが獣の足になっていた。」というもの。ミッドタウンに設置することで、都会で生きる人のスタイリッシュさと人間の持つ動物的な本能の両面を映し出す「鏡」の役割を担うと考える。



住田 衣里 (すみだ えり)

学生

1989年 愛知県名古屋生まれ、在住
2014年 愛知県立芸術大学大学院
美術研究科彫刻領域 在学中
2009年 「岡本太郎現代芸術賞・特別賞受賞」
2010年 「トーキョーワンダーシード・入選」

【作品名】

群雄割拠(ぐんゆうかつきよ)



素材：銅・真鍮・錫・銀・赤銅・ステンレス・鉄

【作品について】

建築されてから時間が経過したコンクリートブロックの壁、一部は崩れ雑草が生えていた。その草や壁には小さい生き物達が住んでいる。子供のと看には身近で何気ない所から発見をして喜びを感じていた。年を重ねていくにつれてそうした発見や感動は無くなっていく。そんな日常に金属によって作られた塀や虫や花によって観察と発見をする喜びを与えたい。



原田 武 (はらだ たけし)

金属造形家

1984年 名古屋市生まれ、広島市在住
2009年 広島市立大学大学院芸術学部
造形計画専攻 修了
2013年 「次世代工芸展・入選」
「第8回 TAGBOAT AWARD・入選」

【作品名】
欲玉(よくだま)



素材：木製パネル、写真用粘着パネル、
バックライトフィルム、アルミ角材

【作品について】

私は色、形、性質も違う個が雑多に混ざり合い、その集合体内部で勝手に出来上がる秩序や構造に美を感じる。集合体の外形を創るのが国家や世界秩序。違いが有りながらも一つの球体(地球)を共有し皆、各自の欲に向かって与えられた生を一生懸命生きている。人間の欲望を一枚の食パンに見立てそこに飛びつく人たちを卵子に群がる精子のように我々が生きている今の時代を可視化した。東京ミッドタウンの軒下を奉る杉玉をモチーフに『欲玉』と題した作品。



山田 弘幸 (やまだ ひろゆき)
アーティスト

1975年 香川県生まれ、大阪市在住
1994年 香川県立北高等学校 卒業
刺青の彫師を経て、30代から仏画や絵画の世界に入り、
2010年 初の個展「滲みから馴染み」を大阪現代美術センターで発表。サイトスペシフィックな作品を中心に制作を続ける。

2. <アートコンペ> 今後の審査の流れ

10月6日(月)の最終審査にてグランプリ・準グランプリを各1点、優秀賞の4点を決定。その後、受賞作品は10月17日(金)の授賞式にて発表します。

■ 最終審査会(10月6日(月))について

公開2次審査を通過した6作品は、東京ミッドタウン プラザ B1F に展示し、10月6日(月)に現地で最終審査を実施します。

日時: 10月6日(月) 10:00~12:00
場所: 東京ミッドタウン プラザ B1F
審査員: 児島やよい、清水敏男、土屋公雄、
中山ダイスケ、八谷和彦(敬称略、五十音順)

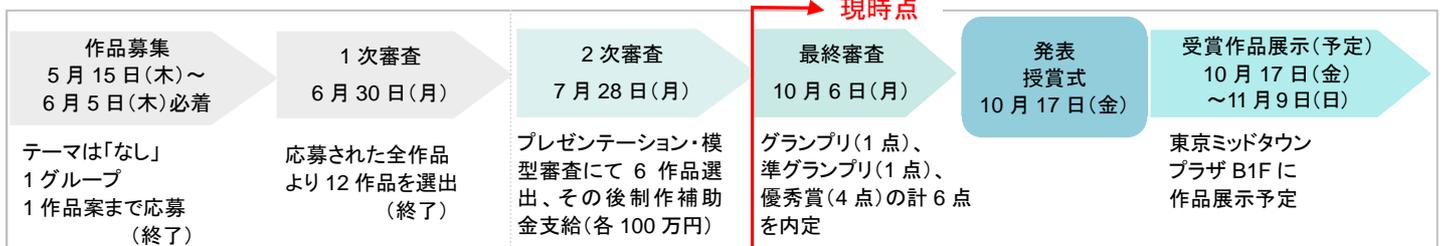


昨年の最終審査の様子

<10月6日(月) 最終審査のプログラム(予定)>

- ・10:00~11:00(予定)・・・作家による審査員への最終プレゼンテーション(プラザ B1F 展示スペース)
- ・11:00~12:00(予定)・・・審査委員による最終審議 (東京ミッドタウン カンファレンス Room9)

※どの時間帯もご取材可能です。最終審査の詳細及びご取材をご希望の方は事前にご連絡ください。



最終審査進出者には制作補助金100万円が支給され、9月26日(金)より東京ミッドタウンのプラザ B1F にて実際の作品を公開制作・展示します。その後、10月6日(月)に行われる最終審査で各賞が決定します。

3. 過去の受賞者の活躍

8月14日(木)に、「Tokyo Midtown Award 2013」のアートコンペ受賞者である渡辺元佳さんによるワークショップが、東京ミッドタウンの夏のキッズ向けのワークショップイベント「MIDTOWN♥SUMMER みんなでつくろう日本の夏」の中で開催されました。カラフルな塩ビの破片を使用した、「なんちゃってサングラス」のワークショップを実施。渡辺さんが講師として参加し、サングラス制作を通して自分の好きな色や形を選んでデザインすることの楽しさを伝えるイベントとなりました。当日は約300名の参加者が訪れ、自分だけのカラフルなサングラスの制作を行いました。



▲渡辺元佳さんと参加者



▲カラフルなアクリルでつくるサングラス



▲想像力豊かに、自分だけの作品を制作

4. <アートコンペ・デザインコンペ>東京ミッドタウン・オーディエンス賞について

10月17日(金)の授賞式にて発表する<アートコンペ>、<デザインコンペ>の受賞作品は、10月17日(金)~11月9日(日)までプラザB1F 展示スペースにて展示します。また、東京ミッドタウンのデザインイベント「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」期間中の11月3日(月・祝)まで、同会場で来街者の一般人気投票を実施し、「東京ミッドタウン・オーディエンス賞」を決定します。

尚、投票された方の中から抽選で5名様に、「Tokyo Midtown Award」デザインコンペから商品化され人気商品となっている以下の4商品の中から、ご希望の商品ひとつをプレゼントいたします。



▲オーディエンス賞イメージ



東京ミッドタウンオーディエンス賞 プレゼント対象商品

- ① 富士山グラス(2008年受賞)
- ② 縁起のいい貯金豚(2011年受賞)
- ③ okokoro tape(2008年受賞)
- ④ 歌舞伎フェイスパック
(2008年受賞)

5. <アートコンペ・デザインコンペ>本年度受賞トロフィーについて

「Tokyo Midtown Award 2014」の各受賞者には、<アートコンペ>審査員でもある土屋 公雄氏が手がけたトロフィーが贈呈されます。毎年、有名アーティストでもある審査員が生み出すトロフィーもこのアワードの魅力のひとつです。



▲Tokyo Midtown Award 2014 トロフィー

Tokyo Midtown Award 2014 のトロフィーは、月が満月へと満ちるイメージで、素材にはイタリア産ビアンコカラーラの大理石を用いて制作しました。受賞者の皆様にはこのアワードをステップに、さらなるご活躍を願っています。

<土屋 公雄>

彫刻家/愛知県立芸術大学教授/武蔵野美術大学客員教授

